

関東ふれあいの道(千葉)③古墳を訪ねるみち

2022年(令4)6月29日 池内淑皓

2022年(令4)4月1日(金)曇りから晴れ、少し寒い。

今日からコロナ蔓延防止が収束して、経済活動と共存になったので、歩きに出かけた。

今回は今日③のコースを歩き、成田のホテルに宿泊。翌日4月2日は「④水鳥の道」を歩き、更に「⑦川と沼をつなぐ道」を半分歩く事にした。それぞれのコースは距離が短く、1日で2つのコースを歩くには、それ程苦痛ではないからだ。



「③古墳を訪ねるみち」案内板 龍正院境内がスタートになる(首都圏自然歩道協議会)



「③古墳を訪ねるみち」コース概念図



「③古墳を訪ねるみち」行程図



今日の鉄道最寄り下車駅は、成田線「滑川駅」9:55 着



駅から 15 分程で龍王院に着く、ここが今回のコース出発地点となる



別名滑川観音。坂東 33 観音のうち 24 番札所。今日は桜が満開であった



道標に従って龍角寺に向かうが、この案内板は日本語、英語、中国語、韓国語の4か国語で表示されている。関東ふれあいの道も国際的になってきたね。



先は田圃の畔道を通り抜け、利根川方向に歩く



新川水門で土手道に出るが、この道が国道356号線の道で、その側道がふれあいの道である。



この利根川は、江戸時代徳川家康の命により開削された運河なのだ。それまでは江戸川を通り、東京湾に注いでいたが、氾濫防止のため開削され、直接太平洋に流れる付け替えを行った



関東郡代、伊那忠次三代にわたり 65 年を費やして完成させた。
河口から 58km、前方の構造物は先程通過した新川水門、国道は脇を通っている



大型の車の往来が激しくて、土手を降り集落の道を歩くと、安西集落に水神様が祀られていた。
宝暦7年(1757)、この集落の上之宮と下之宮と合祀して建て替えられたと記す



「庚申塔」享保7年(1722)安西村講中が造立した青面金剛童子像。
彫像の傷みがなく価値ある庚申塔だと思う (水神様の境内にあり)



利根川を離れて南へ、田圃道を竜台(たつだい)集落に向かう



竜台集落は田圃の中の集落で、利根川が氾濫したら、ひとたまりもない低地に位置している



竜台集落の高台に向かうと延命地藏様があった



竹藪を潜り抜けて次の集落に向かう



集落の台地を抜けると、また田圃道に出る



1万8千年前頃に土砂が堆積した、典型的な北総沖積台地である。台地の地形が良くわかる。



畦道の中を縫うように道がつけられている。田植えが終わると蛙の合唱が聞こえそうだ。



田圃を離れて標高 24mの台地に上ると、麻生の集落に入る。
ここはコース⑧の「沼めぐりのみち」分岐に出る、右折すれば 1 時間程で成田線安食駅に出る。



「龍角寺」(境内一帯は国指定史跡)

和銅 2 年 (709) 創建と伝える。関東地方で最も古い寺院の一つ。かつては壮大な堂塔伽藍が存在したが衰退した。
本尊薬師如来は白鳳時代の造りで、重要文化財となっている



金堂跡



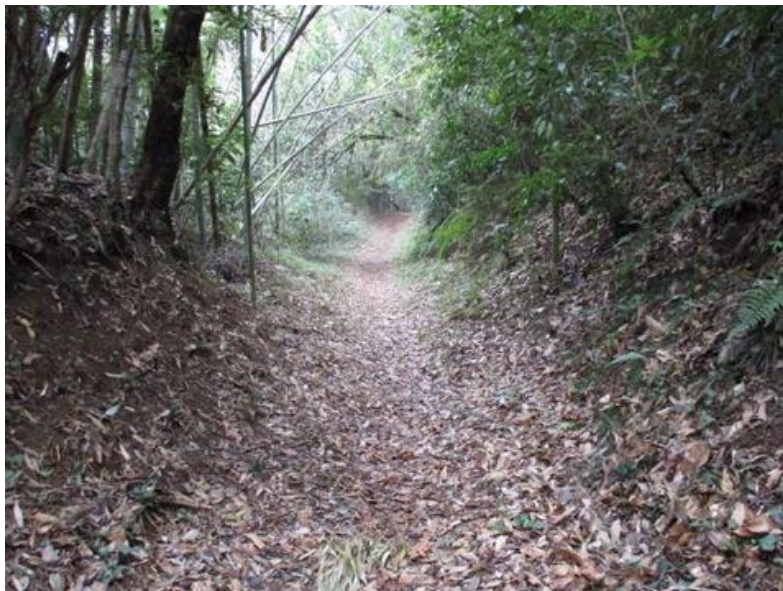
宝篋印塔は江戸時代の刻銘があり、この寺の仏塔ではないという



龍角寺門前から南へ、真っすぐ道が伸びている



白鳳時代に古墳群と龍角寺を繋ぐ道と案内に記述されている



丘陵も、谷も迂回せず一本道がこれから行く風土記の丘に向かっている



道の途中に「浅間山古墳(国史跡)」がある(国指定史跡)



突如この一帯に古墳群が散在している。113基が密集して存在する。日本でも有数の古墳群となっている



この一帯は「龍角寺古墳群」と名付けて、国指定史跡となっている。
 印旛沼を望む高台に、古墳時代 115 基の墳墓が存在し、うち 78 基が整備されている。



「岩屋古墳」6～7 世紀にかけて何回も埋葬されたと云う。
 埴輪類、碧玉、勾玉、管玉、耳輪等の装身具、鉄製の馬具、直刀、鉄鍬等が出土している





今日のゴール地点、成田線下総松崎駅に出る。

成田に宿をとってあるから、駅前で一杯飲んでから宿に向かおう

[参考タイム] 滑河駅(9:55)→龍正院(10:15-10:20)→新川水門(11:08)→竜台(12:05-12:10)
(途中昼)→③・②⑦分岐点(13:45)→龍角寺(14:00-14:15)→房総風土記の丘(14:15-14:55)→
JR 下総松崎駅(15:30-15:51)→成田駅(15:57)泊

この項完

「関東ふれあいの道(千葉)④水鳥のみち」に続く